



せい しん つう しん
聖 心 通 信

札幌聖心女子学院

校長 齊藤 隆浩

第9号 2021年11月29日

〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条16丁目10番1号

TEL 011-611-9231 / 011-676-7667(職員室直通)

URL <https://spr-sacred-heart.ed.jp>

FAX 011-612-0980

後期中間考査が終わりました。急に寒くなって雪も降り始め、冬の訪れを実感する日々です。体調管理に気を配りながら、クリスマスを迎えましょう。

12月の予定

	行事	お弁当
1(水)	高3 クリスマス練習・撮影(4校時) 課題研究ミーティング⑧	要
2(木)	インターナショナルデイ(AFS留学生来校、2~7校時) 交流会(7校時)	要
3(金)	高3 午後家庭学習	要
4(土)	高3 家庭学習 高2 クリスマス練習・撮影(1校時) 高1 クリスマス練習・撮影(3校時) 父の会聖書サークル(16:00~17:30)	※
5(日)		
6(月)	クリスマスプラクティス(~12/17) 漢字コンテスト②(1校時) ※中3のみ3校時、高1-S 通常授業 高1-G イングリッシュキャンプ(~12/10)	要
7(火)	個人成績票手渡し 母の会聖書サークル(10:30~、Sr.田口) 視覚支援学校交流会(16:00~17:00)	要
8(水)		要
9(木)		要
10(金)	中3 卒業研究発表会	要
11(土)	高1-G 代休	※
12(日)	寄宿クリスマス会	
13(月)	高1 漢字コンテスト②(3校時)	要
14(火)	オンライン全校朝礼	要
15(水)		要
16(木)	クリスマス全体練習①(6~7校時)	要
17(金)	クリスマス全体練習②(6~7校時)	要
18(土)	クリスマス・ウィッシング(8:50~11:10)	不要
19(日)		
20(月)	中2 クラス合宿(~12/21)	要
21(火)	終業日 大掃除・オンライン全校集会(11:30下校予定) 寄宿生帰省	不要
22(水)	うるかむはうす訪問・ご寄付 冬季休業(~1/19)	
学校閉鎖期間(12/29~1/3)		

※ 必要な方は昼食をご用意ください。

行事予定はあくまで暫定のもので、ご了承ください。

変更については一斉メール等でご連絡いたします。

梅干し弁当募金

11月10日(水)の梅干し弁当募金では**総額 40,526円**を寄付していただきました。国境なき医師団にお送りしました。ご協力ありがとうございました。

Congratulations!!

- ◎ 第67回青少年読書感想文全道コンクール
優秀賞 高2-S 目良 茉莉香さん
- ◎ 第67回札幌市読書感想文コンクール
佳作 高2-S 白石 志帆さん
佳作 高1-S 山本 桃香さん
- ◎ 北洋銀行・北海道放送
第49回中学生作文コンクール
優秀賞 中3-1 福本 ももさん

**“届けよう、服のチカラ”
プロジェクト 活動終了!**

7月7日(水)の課題研究ミーティングでユニクロの方にご講話いただいて以降、有志の生徒が難民支援のために子ども服を集める活動を行ってまいりました。最終的には、校内外を問わず呼びかけに賛同してくださった方から本当にたくさん子ども服を届けていただきました。どうもありがとうございました。



今月の聖句

主は私たちと共におられる。

イザヤ書 7章 14節

コロナ禍でお客様を迎えてのコンサートは叶わない中、今年は、伝統的なクリスマス・ウィッシングで全校の「ハレルヤ」を始めとして何曲かが歌われることになり、高校3年生が練習する“O come, O come, Emmanuel”（「インマヌエルよ、来てください。」）の響きが心に沁みる今日この頃です。預言者イザヤの書の「インマヌエル」とは「主は私たちと共におられる」という意味で、「人と共にある神」とも訳されます。

生徒たちは今年のクリスマスのテーマを「光」と決めました。「光」がなければ私たちは見ることはできません。聖書では、私たちの観方、考え方、生き方を照らし出し、導くのが、「光」です。しかしそれは、私たちの現実とかけはなれた至高の輝きではありません。遠い高みの完璧な存在だと思っていた神が、実は地を這う人間の孤独と痛み、みじめさや、挫折、苦しみを知らずであり、それゆえに深い憐れみと許しのうちに、私たちの嘆きの時に、すぐ傍らにいてくださる「人と共にある神」であったと気づくとき、私たちの観方、生き方は変わり、許すことも可能になります。それが「光」なのです。

宗教の授業で「光」について学んだ高校3年生の言葉を分かち合いたいと思います。

「“O come, O come, Emmanuel”を暗い場所で歌うのは、コンサート（演出効果）のためではなく、暗闇に「共にある神」を見出すという意味があることに初めて気づきました。そして、神の想いを生きて、許すことがどれほど大切なことか、改めて学びました。」

「ほんとうにイエスは、一人ひとりの心の中にいてくださると思いました。苦しい状況にあっても、イエスは寄り添って、光を掲げてくださるのだなと思います。イエスを想って“O come”を歌いたいと思います。」

イエスも体験されたホームレスや難民の暮らしを想い、熱心に歌の練習に取り組む全校生は、同時にプラクティスで静けさを創り出し、気づきの時を大切にしながら、自分たちの沈黙をホームレスや難民の方々へのお米やカイロを集めることに変えていきます。貧しさや苦しみの意味を変えてしまった一人の赤ちゃんの誕生を祝うために、「光」を分かち合うために。

（チャプレン Sr.田口保子）

